

上流は下流を思い、下流は上流に感謝する

第16回

全国水源の里 シンポジウム

in 佐賀県嬉野市

命を育む大地を守る

～大雨災害からの復興と未来への一歩～



(上流)春日溪谷の紅葉



(下流)塩田津みなと広場の桜

日程 令和6年11月21日(木)・22日(金)

場所 嬉野市社会文化会館「リバティ」文化ホール
ほか

主催 第16回全国水源の里シンポジウム実行委員会

11月21日(木) 13:00～17:00 【入場無料】

嬉野市社会文化会館「リバティ」文化ホール

■ シンポジウム

・ 基調講演

「自然災害と共に歩む一地域のつながりで守る命」

講師: 災害NGO結 代表 前原 土武氏

・ パネルディスカッション

コーディネーター: 山田 健一郎氏

パネリスト: 三根 孝之氏、杉光 敬一郎氏、山口 孝子氏、
副島 瑠美氏、永尾 智子氏

■ 交流会(嬉野市中央公民館)【有料・要事前申込】 18:00～

11月22日(金) 9:00～13:00 【有料・要事前申込】

嬉野温泉駅温泉口(西口)〈出発・解散〉

■ 現地視察研修(3コース)

[Aコース] 新幹線を活かした販わいの創出コース

[Bコース] 地場産業振興コース

[Cコース] 歴史と文化、農業再生コース

第16回全国水源の里シンポジウム実行委員会 事務局
佐賀県嬉野市 行政経営部 総務・防災課

TEL 0954-66-9111

第16回 全国水源の里 シンポジウム in 佐賀県嬉野市

うれしの茶は、室町時代に中国より伝わり、不動山皿屋谷で栽培が始まったのを起源とし、江戸時代には吉村新兵衛が山林の開墾に尽力し、茶産地として嬉野が知られるようになりました。

嬉野市が茶栽培に適している理由は、温暖な気候と適度な降水量、また山間部に位置し、昼夜の寒暖差が大きく、茶葉に旨味や香りを与え、排水性が良く栄養分が豊富な土壌が茶の生育に適しているからです。これに加えて、嬉野では16世紀に釜炒り茶製法が伝えられ、製茶技法が発展するにつれて、蒸し製玉緑茶の生産が盛んになり、現在に至るまで茶の栽培と加工の伝統が古くから受け継がれております。うれしの茶は日本全国だけでなく、幕末から海外にも輸出されており、地域おこしや観光資源としても重要な役割を果たしています。

1週間で1,100mmもの豪雨に見舞われた令和3年には、300か所近くの茶畑が崩落し、市内全域にわたり甚大な被害を受けました。しかしながら、地域の力と災害ボランティアの支援を受けて復興を果たし、全国茶品評会において農林水産大臣賞や産地賞1位を獲得できるまでに至りました。

塩田川沿岸の塩田津(しおたつ)は、有明海の日本一の干満の差を利用して、歴史的に天草陶石を荷揚げする川港として栄え、また長崎から砂糖文化を各地に伝えた日本文化遺産「シュガーロード」の中心地の一つとして江戸時代から明治時代にかけて発展し、それゆえ水害対策とともに栄枯盛衰の道を歩んできました。塩田津はこれまで幾度となく災害と戦い、復興を遂げてきたまちであり、地域の連携やコミュニティの力により、生活基盤の再建とともに、文化や伝統を守ってきた歴史は、今も地域の誇りとして受け継がれています。

本シンポジウムでは、過去の事例から、自然災害に対する地域の復興力や持続可能な発展について考察します。

11月21日(木) シンポジウム【入場無料】

基調講演

自然災害と共に歩む一地域のつながりで守る命



講師

災害NGO結代表

前原 土武氏

交流会

(嬉野市中央公民館)
【有料・要事前申込】

パネルディスカッション

コーディネーター

佐賀災害支援プラットフォーム
共同代表

山田 健一郎氏



パネリスト

塩田津町並み保存会 理事長

杉光 敬一郎氏



パネリスト

株式会社吉田屋 常務取締役

副島 瑠美氏



パネリスト

三根孝一緑茶園

三根 孝之氏



パネリスト

嬉野南部釜炒茶業組合

山口 孝子氏



司会進行・パネリスト

茶癒人(ディーラー)ななとも

永尾 智子氏



11月22日(金) 現地視察研修【有料・要事前申込】

Aコース



新幹線を活かした販わいの創出コース

Bコース



地場産業振興コース

Cコース



歴史と文化、農業再生コース